

平成 25 年度 終了評価書

研究機関 : (株)日立製作所、早稲田大学、東海大学、日本電気株式会社、
(株)KDDI研究所

研究開発課題 : 災害に備えたクラウド移行促進セキュリティ技術の研究開発

研究開発期間 : 平成 22 ～ 24年度

代表研究責任者 : 寺田 修司

■ 総合評価(SABCD の5段階評価) : 評価 A

■ 総合評価点 : 22 点

(総論)

目標以上の成果を達成している。

(コメント)

- 3年間という短い期間にもかかわらず、ソフト・ハード両方を実用化できるレベルに達することができている。
- 課題1「プライバシー保護型処理技術」、課題 2「セキュリティレベル可視化技術」について共同研究開発を行い、十分な成果を挙げた。課題3「大規模災害に備えたクラウド移行促進技術」についても共同開発を行い、十分な成果を挙げた。更に課題4「実証実験」についても十分な成果を挙げた。
- 各ベンダー、会社、大学が優れた特長のあるクラウドシステムを提供し、競争を行っていくことができる事業展開を期待したい。

(1) 研究開発の目的・政策的位置付けおよび目標

(SABCD の5段階評価) : 評価 A

評価点 : 4点

(総論)

今後の事業化の方向性を明確にできている。

(コメント)

- 課題1「プライバシー保護型処理技術」、課題2「セキュリティレベル可視化技術」について共同研究開発を行い、十分な成果を挙げた。
- 終了後の事業化、新たに見つかった課題への取組を明確に理解している。
- クラウド利用に関する不安を払拭する目的は現在でも重要である。

(2) 研究開発マネジメント(費用対効果分析を含む)

(SABCD の5段階評価) : 評価 B

評価点 : 3点

(総論)

効率的なマネジメントが行われた。

(コメント)

- 課題1「プライバシー保護型技術」、課題2「セキュリティレベル可視化技術」について共同研究開発を行い十分な成果を挙げた。課題3「大規模災害に備えたクラウド移行促進技術」についても共同研究開発を行い十分な成果を挙げた。更に課題4「実証実験」についても十分な成果を挙げた。
- 大項目ごとに複数社が分担するなど、十分な協力が行われた。
- コンソーシアムの活動などがよく分からなかった。

(3) 研究開発成果の目標達成状況

(SABCD の5段階評価) : 評価 A

評価点 : 4点

(総論)

当初設定の目標をクリアできており、一部はさらなる改良ができています。

(コメント)

- 課題1「プライバシー保護型技術」、課題2「セキュリティレベル可視化技術」について共同研究開発を行い十分な成果を挙げた。課題3「大規模災害に備えたクラウド移行促進技術」についても共同研究開発を行い十分な成果を挙げた。更に課題4「実証実験」についても十分な成果を挙げた。
- 申請時及び継続審査時の課題を解決できている。自主的に追加の開発を行っている。
- プライバシー保護型処理技術などの要素技術で成果があがっている。

(4) 研究開発成果の社会展開のための活動実績

(SABCD の5段階評価) : 評価 A

評価点 : 4点

(総論)

実際の環境で実用化に向けた実証実験を行っている。

(コメント)

- 課題4「実証実験」についても十分な成果を挙げた。
- 実証実験の結果は、おおむねポジティブな意見で占められており、実用化の可能性は高いと考えられる。
- ITU における活動を評価する。(しかしバイオメトリクス関連だけでありクラウド関連はない。)

(5) 研究開発成果の社会展開のための計画

(SABCD の5段階評価) : 評価 B

評価点 : 3点

(総論)

国際標準化に努力するなど十分な計画となっている。

(コメント)

- 各ベンダー、会社、大学が優れた特長のあるクラウドシステムを提供し、競争を行っていくことができる事業展開を期待したい。
- 特許についても広く利用を考えている。今後のコンピューティング環境の変化に対応する必要がある。
- 社会展開と現在の技術動向にはまだ開きがあり、さらなる工夫が必要である。